

# 千葉教育

## 菊

平成29年度  
No.646

10・11月

千葉の子どもたちの未来のために

### 特集 保幼小の接続・連携を考える

#### ○シリーズ 現代の教育事情

|                           |       |
|---------------------------|-------|
| 白梅学園大学大学院特任教授             | 無藤 隆  |
| 国立教育政策研究所・幼児教育研究センター総括研究官 | 掘越 紀香 |
| 教育庁教育振興部指導課               |       |
| 浦安市教育委員会                  |       |

#### ○提言

|           |       |
|-----------|-------|
| 佐原囃子上仁會代表 | 浅野 仁志 |
|-----------|-------|



千葉県総合教育センター

# 目次

千葉教育 菊 No.6 4 6

## ◆学校自慢

学校支援地域本部事業を核とした学校づくりの推進

千葉市立磯辺中学校長

増澤 保明

## ◆提言

郷土芸能（佐原囃子）伝承による人間形成

佐原囃子上仁會代表

浅野 仁志 …2

## シリーズ！ 現代の教育事情 保幼小の接続・連携を考える

■幼児教育と小学校教育の接続

白梅学園大学大学院特任教授

無藤 隆 …4

■幼小接続を考える

国立教育政策研究所・幼児教育研究センター総括研究官

堀越 紀香 …6

■千葉県における保幼小の連携の在り方について

県教育庁教育振興部指導課 …8

■幼児教育と小学校教育をつなぐ

浦安市教育委員会 …10

## 私の教師道

■学校を創る 特別支援教育の視点を生かした学校経営

市川市立曾谷小学校長

早川 淳子 …12

■学校を支える 地域の教育力を生かした豊かな心の育成～地域と連携した特色ある教育活動の実践を通して～

御宿町立御宿中学校教頭

吉野 英樹 …14

■学校を動かす 支えあいながら

県立八千代西高等学校教諭

河合 常雄 …16

■研修を生かす 研究主任としての実践報告

南房総市立白浜中学校教諭

白井 隆太 …17

■授業を創る スマートフォンを活用した、アクティブ・ラーニング（高校数学科）

県立千葉高等学校教諭

大橋 真也 …18

■子どもを知る 認める ～子どもの心に響く伝え方～

成田市立大栄幼稚園教諭

花井 裕紀 …20

■子どもを知る 自分らしく ～すべては子どもたちのために～

市原市立五井中学校教諭

大森 学 …20

## 活・研究 長期研修生からの報告

■小学校編 小学校低学年におけるいじめを生まない心を育む道德教育プログラムの開発

～子ども、教師、家庭間の対話を大切にしたい取組を通して～

旭市立三川小学校教諭

佐藤 和美 …21

■教育臨床編 学校教育相談を学ぶ（教育臨床 共同研究）

八街市教育委員会

酒井 美穂 …24

■中学校編 会話の継続を目指した指導法の研究

～「質問する力」を培う言語活動を通して～

柏市立柏第三中学校教諭

福田 美和 …27

## 情報アラカルト

■「地域学校協働活動」の推進に向けて

県教育庁教育振興部生涯学習課学校・家庭・地域連携室 …30

■県立美術館 Art Collection + 「追悼 深沢幸雄の歩み」紹介

県立美術館 …31

■県立関宿城博物館における子ども向けの試み

県立関宿城博物館 …32

■体験活動を取り入れた科学技術教育に関する研修について

県総合教育センターカリキュラム開発部科学技術教育担当 …34

## 学校 NOW！

■学校歳時記 子どもに身に付けたい確かな資質・能力

教育創造研究センター所長

高階 玲治 …36

■笑顔がいっぱい 組織的な生徒指導の大切さ

茂原市立東中学校教諭

後藤 恒治 …38

## ◆千葉歴史の散歩道

東京に一番近い大型貝塚 ～堀之内貝塚～

文化財課埋蔵文化財班・文化財主事

會田 成美

## 道標

### 保幼小の接続・連携を考える

幼児期の豊かな体験により身に付いた学びを小学校教育に円滑に接続していくために、幼児期の教育では今の学びがどのように育っていくのか、小学校教育では幼児期の教育内容の深さや広がりをも十分に理解するなど、お互いの教育を理解することが大切であり、「学びの連続性」を保障するなど教育システムの構築が非常に重要である。

平成26年度幼児教育実態調査（文部科学省）によれば、市町村ごとの幼稚園と小学校の接続の状況として、接続を見通した教育課程の編成・実施は行われていないとする回答がおおよそ6割を占めているという結果となった。それを受け、平成28年4月に国立教育政策研究所に幼児教育研究センターが置かれ、幼小接続期カリキュラムが示された。同年9月には、本県でも幼児教育の更なる充実に向けた取組として、県総合教育センターに幼児教育アドバイザーが配置され、幼児教育の推進構築事業の研究を進めているところである。

また、二年目の本年度からは調査研究事業として「幼児期の教育と児童期の教育の円滑な接続を図るカリキュラムについての研究」を始めるとともに、研修事業として「幼児教育アドバイザー育成事業」、「スマイル先生！幼児教育若手指導力アップ研修」を新規で行っている。

保育所や幼稚園から小学校へ入学した際、環境や教育システムの大きな変化により不適応の状況が起こりやすいことをいわゆる「小1プロブレム」と言われてきた。そして、その対策として保幼小の連携の推進など、それらの不安を軽減する取組がされてきたが、十分な改善までにはいたっていないのが現状である。

では、幼児期の教育と児童期の教育の円滑な接続を図るためには、具体的にどのような取組が必要なのだろうか。子どもの発達段階を踏まえ、接続期のカリキュラムに触れながら、保幼小のよりよい接続・連携の在り方について考えていきたい。